

工業出荷額は33.1億円

前年比2倍近い伸び

工業統計調査は、国や県、市町村の産業基盤となっている製造業の実態を明らかにするために毎年通産省が行う重要な調査です。このほど57年の集計がまとまり、新潟県から公表されましたので、黒埼町の工業の概況を見てみましょう。

従業者数は2,258人

出荷額は

前年より2倍近くの15.3億2,852万円増と大中な上昇で総額33.0億6,512万円となりました。10年前と比べると約4倍の伸びになっています。

◎事業所数、従業者数は

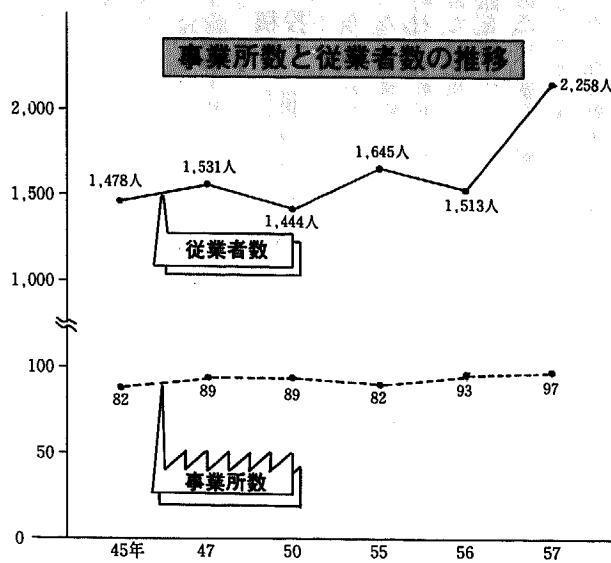
事業所は前年より、4事業所増え、4.3%の増加率となっており、10年前と比べて8事業所増の約9%の増加率にとどまっています。

従業者は男1,545人、女713人で、前年より7.45人増の49.2%の増加率と大中な伸びを示しています。

従業員30人以上の事業所は12社で、従業員4～29人の事業所は53、従業員1～3人の事業所は32事業所となっています。



町内事業所で



近隣市町との比較

	事業所数	従業者数	製造品出荷額
巻町	214	2,423人	242億円
西川町	56	1,092	103
吉田町	547	5,655	944
分水町	235	2,587	355
燕市	2,966	16,618	1,944
白根市	284	5,128	802
黒埼町	97	2,258	331

(注) この表の事業所数、従業者数、製造品出荷額ともに製造業を対象とした工業統計調査の総数です。

町の活性化へ一役 産業の振興

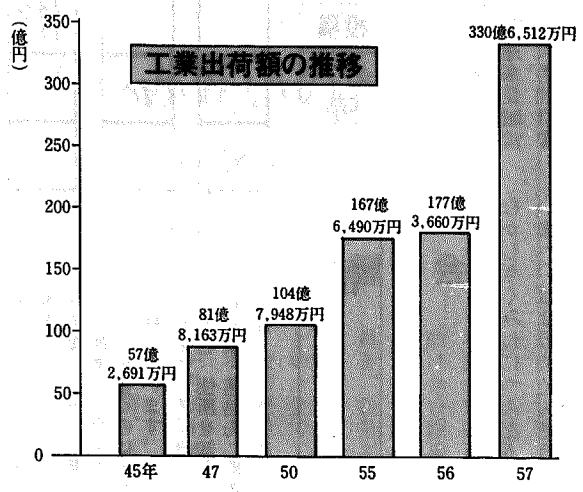
工業の事業所が増加、拡大し発展することは、町民はもとより、町政に大きく貢献することになります。

まず第一に固定資産税などの町税の増収につながり、町の直接的な予算である自主財源が高まり、健全財政を促進します。つまり、より豊かな町づくりが推進されることとなります。

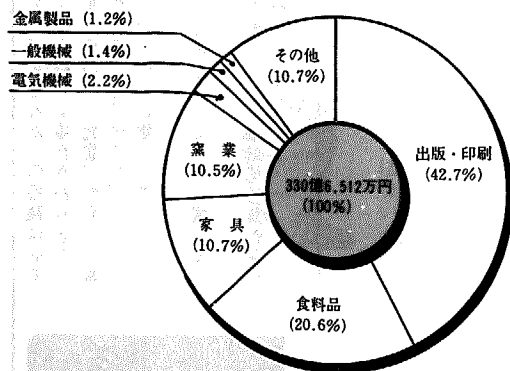
また、雇用の安定化が図られ、町民所得が向上することで消費も増大し、商業の発展にもつながってきます。

黒埼町は、新潟市に隣接している地理的条件などで、人口は増加の一途をたどり、それなりに発展してきましたが反面、土地の高騰により、工場(企業)の誘致が困難となつてきています。町では今後町の活性化のために産業を振興していきたい考えで、公害のない優良企業を誘致したいと考えています。

現実的には、国道8号線沿線、流通センター(本町分8.1ヘクタール)があり、将来的には、町全体の長期展望の中で工業を考えていきます。



業種別出荷額の割合



新幹線高架下にライオンセンター 全国初のケース



板井四番生産組合(組長渡辺信行ほか十一名)では、国鉄の協力で新幹線高架下にライオンセンターを建設することにし、六月十二日(火)、高架下で起工式が行われた。高架下を利用することで、田畑をつぶさずすみ、基礎杭や屋根工事も不要。建設費も30%ほど少なくすむ。新農業構造改善事業(国庫補助50%)の一つだが、全国でも初の試みである。

立仏チーム優勝

中の口浴線ソフトボール大会

第一回中之口浴線ソフトボール大会が五月二十七日(日)、立仏小グラウンドで行われ、地元立仏ソフトボール愛好会が優勝した。

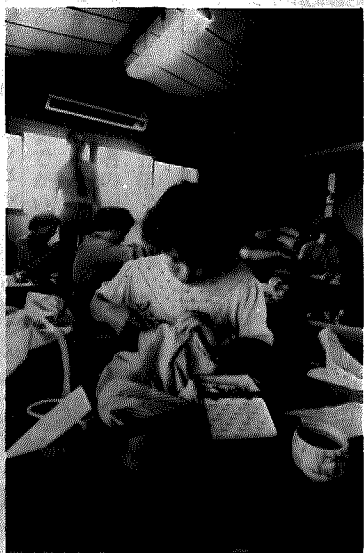
TOPICS

同チームはどちらかというと中年主体だが、熟年パワーで打撃爆発、決勝でも黒鳥ミツキマウスを破った。他参加チーム 中の口、月潟 潟東、味方



捨てる前に再利用を考えて

婦人会主催リフォーム講習会



使えなくなったものを(場)で、壊れた傘を使っ再利用しようと、婦人協 た毛染めケープ、古いワ 議会で六月十二日(火)、 イシャツでエプロンを作 リフォーム講習会を開き った。省エネ、省ゴミの 十五人が参加した。 時代、捨てる前にもう一度考えてみたら…… 講師は佐藤キクさん(木

河川敷はゴミ捨て場ではない

ゴミ不法投棄一掃処分



衛生委員会(横山仁一郎会長)では、ゴミ不法投棄一掃処分を6月11日(月)に行い、2トントラック3台分のゴミを集めた。作業にあたったのは衛生委員の九人。中の口川河川敷の交通公園では、大木やがれき、空き缶など大量のゴミが捨てられてあった。同地には「ゴミは捨てないで」という看板が立てられていたのだが…。処分につながるゴミは町保健衛生課へ連絡してほしい。